大仙市立西仙北中学校

# 羽ばたこう　立志の丘から

学校通信

平成２７年１１月５日
No.２９

## 生徒会役員選挙
## 立ち会い演説会及び投票

10月28日は、生徒会役員の会長及び副会長男女各１名を選出する立ち会い演説会と投票日でした。

生徒会長には３名が、男子副会長には２名、女子副会長には１名が立候補し、各候補者は、これまで本格的なポスターを作製して掲示したり、朝早くからの呼びかけを行ってきたりなどの選挙活動を行い、当日に臨みました。

各候補者及び責任者の応援演説の一部を紹介します。

これまでの生徒会長に憧れをもっており、心のこもったあいさつのできる学校を目指すとともに、立志祭をさらに最高のものにしたいという思いで立候補しました。

これまで一緒に活動してきて、彼の能力の高さ、彼自身が自分を変えていこうとする姿を見て推薦しました。

思いやりのある学校をつくりたい。そのためにあいさつに一言付け加えてコミュニケーション能力を高めていくような取組をしてみたい。

責任感があり、具体的なアイディアをもっている彼女を推薦する。

立志祭で活躍する先輩たちに憧れ、自分もこれまでの経験を生かして頑張りたい。

何事にも挑戦し、人の先に立って行動できる力をもつ彼女を推薦する。

よい意味の「型破り」、今年の学校祭のテーマ「イノベーション」をモットーに活動してみたい。

新鮮な目で学校生活を見ている、彼の人間性がすばらしい。

待ってられない未来をがある。当たり前のことを当たり前にできる学校をつくりたい。自分の夏の駅伝の挑戦を生かしたい。

彼の夏の挑戦が彼を成長させている、それを生徒会活動にも生かせると考える。

これまでの経験を生かし、全員が一生懸命目標に向かう西仙北中学校にしたい。

責任感があり、みんなをまとめる力がある、彼女を推薦する。

立候補者の演説も具体的で立派でした。責任者を務めた３年生も、立候補者の人柄をよく伝えた見事な応援演説でした。今回の立候補者であれば、誰が当選しても、新しい生徒会を牽引してくれるものと思いました。お疲れ様でした。

## 2年生盛岡自主研修　専門学校訪問

10月30日、２年生が盛岡自主研修に出かけました。これは本校キャリア教育の一環で、将来を見据えた望ましい勤労観、職業観の育成をねらいとする体験学習です。

生徒たちは各班に分かれ、医療福祉専門学校やハイテクニカルクッキングカレッジ、法律ビジネス専門学校、ヘアメイク専門学校、ペットワールド専門学校、情報ビジネス専門学校などを訪問し、将来の資格取得や職業選択の一助となるよう学んできました。

また、その後は、盛岡の名所や食の文化探訪も行いました。

今後の進路学習に役立つ経験が

積まれたことと思います。また、初めて出会う方々とのあいさつの仕方やコミュニケーションのとり方など、実社会・実生活でのマナーやルールの実践にもなったことと思っております。

報告書とともに、生徒たちの成長が楽しみです。

## 招待野球大会　優勝！

10月末は、太田中学校被災地交流事業の一環で、岩手県大槌中学校を含めた太田中学校招待野球大会が開催され、本校も招待していただきました。

本校は予選リーグで太田中学校及び大槌中学校と対戦、攻撃のミスが目立ったものの守り抜いて、どちらも完封で２勝を挙げ１位通過しました。

決勝では神代中学校と対戦。好守の歯車が合い、今シーズンベストの試合（監督談）で勝つことができました。シーズンの最後を優勝というすばらしい成績で終えることができました。オフシーズンはこれを励みに、来春・来夏を見据えた練習をしてほしいと思います。おめでとうございます。

## 税に関する作文コンクール3年佐藤君入賞！

大仙市では「税を考える週間（ 11月11日から17日まで）」にあわせ、税金が私たちの暮らしにどのように役立っているかを知り、税の意義や役割、その使い道などを考えてもらおうと、市内の小・中学生を対象に「税に関する習字」「税に関する作文」のコンクールを実施し、啓発活動をしています。

今回、中学校作文コンクールには、市内10校から275点の応募があり、本校3年佐藤汰一君が見事大仙市長特別賞に入賞しました。おめでとうございます。

なお、入賞作品は、11月２日（月）から13日（金）まではイオンモール大曲２ 階「登美屋」前展示ホールで、また、11月14日（土）から20日（金） までは市民活動交流拠点センター「Anbee大曲」2階で展示しますので、ぜひご覧ください。

## フィンランドの先生　来校

４日は、フィンランド共和国エスポー市立サールニラークソ中学校のヨウニ・クピアイネン先生が本校を訪問しました。

これは、日本とフィンランドの中学校の美術科の授業交流をしようということで、秋田公立美術大学の尾澤　勇准教授が仲立ちをしてくださり、ヨウニ先生と本校美術科担当の田中真二朗教諭の交流の一つとしての訪問でした。

本日は、1年生の美術の授業と、3年生の英語の授業を参観していただき、その後、美術科や学校教育を中心に日本・秋田とフィンランドの共通点やその違い等について懇談をしました。

風景画の授業について、ヨウニ先生からは、題材の鑑賞ポイントの示し方や生徒の思いを引き出す発問、画材や用紙、参考資料の提示が豊富で、生徒の表現の幅や選択肢が広いこと、何よりも生徒が明るく雰囲気のよい授業であり、このような授業であれば生徒の発想も豊かになり、個性も発揮されるだろうと褒めていただきました。

フィンランドでは、小学校３年生から英語の授業が必修となっており、ヨウニ先生もフィンランド語の他にスウェーデン語や英語が堪能でした。ちなみに、本日は、尾澤先生のいとこにあたりフィンランドで暮らしている、宮澤豊宏さんが同行して、丁寧で明確な通訳をしていただきました。

なお、交流事業の一環として、昨日3日～19日までの日程で、「美術の時間」展　Vol.５～フィンランドと日本どんな授業をやってるの？～が秋田公立美術大学社会貢献センターアトリエももさだ市民ギャラリーで開催されております。

フィンランド共和国エスポー市立サールニラークソ中学校と、大仙市立西仙北中学校の生徒が美術の時間に制作した作品や、授業中のスケッチ、メモ、授業風景を映像で展示しています。美術の授業中にどんなことを考え、表現しているのか。両国の授業や文化の比較を通して、「これからの学び」を考えます。

また、本校田中教諭は次のような思いをもっております。

他国の美術文化と日本の美術文化を比較する中で、日本の美術文化への興味を深めていきたい。雪国であるフィンランドと秋田、距離的に遠い国だが、よく見てみると似ているモノやコトがあることに気付いた。フィンランド共和国エスポー市立サールニラークソ中学校と実際に連携し、互いの美術文化や授業で制作した作品、生徒のコメント等を交流させ、秋田の新たな文化を創ろうとするヒントを得ていきたい。フィンランドのＡＲＴＳ＆ＣＲＡＦＴの授業内容と日本におけるデザイン・工芸の授業を比較して生活に結び付け、生きる力となる授業づくりの在り方を模索していきたい。

お忙しい中、大仙市教育委員会　吉川正一教育長と千田寿彦教育指導部長も本校に訪れ、ヨウニ先生たちと懇談していただきました。ありがとうございました。